

# 地域の宝（生き物）調査を通じた地域を愛する児童の育成

実施担当者 永平寺町志比北小学校

校長 小鍛冶 優

## 1 はじめに

永平寺町志比北小学校の南側を沿うように流れる九頭竜川中流域は、魚種も豊富でカジカの中のアラレガコ（和名：カマキリ）が生息しており、昭和10年に国の天然記念物に指定※されている。また、九頭竜川はアユやサクラマスなどでも知られている。しかし、自然が豊かなこの地でも、子どもたちは、水難事故防止のため河川で遊ぶことを禁止されたり、テレビゲームの普及で野山で遊んだりする子どもも少ないのが現状である。そこで、地域の人に協力を頂きながら、地域の自然を調べる活動を行って、地域の貴重な自然と環境を守る活動に取り組み、地域を愛する児童を育てたいと考えた。

※アラレガコとその生息する流域、独特の食文化を合わせて天然記念物に指定

## 2 取り組み内容

地域の宝である豊かな自然を知るために、以下の様な内容で調査・活動を進めた。

- (1) 父母や祖父母の時代の地域の生き物（魚・昆虫など）アンケート調査
- (2) 地域の生き物（魚・昆虫など）を知り、飼育する活動
- (3) 河川環境を調べる活動
- (4) 九頭竜川の恵みを体験する活動
- (5) 生き物を殖やす取り組みを学ぶ活動

### 2-1 今と昔の生き物の多様性アンケート調査

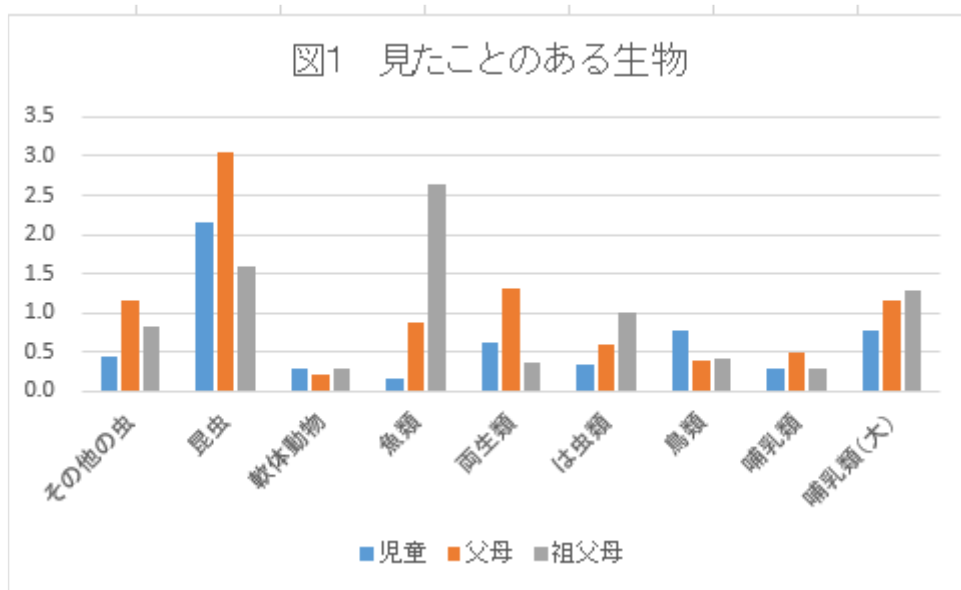
最初に取り組んだことは、生き物についてのアンケート調査である。ねらいは、自然が豊かといっても比較するものがないと実感が伴わないので、児童が生活する今と昔（児童の父母、児童の祖父母が小学生の時代）を比較して、生き物の多様性の違いを調べることである。調査対象は、児童18名、保護者（父母）25名、祖父母17名で、アンケートの内容は、以下の通りである。

- ①あなたが、地元の山や川、身のまわりで見たことのある生き物を教えてください。
- ②あなたの家の周りで見たり捕まえたりしたことのある生き物をお答えください。
- ③家で、どんな生き物を飼っていますか。（飼っていましたか。）

その結果（概要）であるが、祖父母の代では、祖父母の生活圏と動物が棲む生活圏がオーバーラップしているというか、より自然や生き物が近い環境にいた可能性が高く、身の回りに自然が豊かであったことが伺える。以下に、紙面の関係で①の結果を紹介する。

①見たことのある生物<結果下：図1>

・祖父母の意見として、「最近では、タニシ、シジミ、ツバメなど本当に少なくなりました。」と



いう意見があった。

・父母の意見として、「イノシシ、サル、カモシカ、ハクビシン、アライグマは、今はよく見かけるが、昔はあまり見かけなかった。」、「実家の前の川に、昔はホタルやザリガニ、フナ等がたくさんいました。残念ですが、今はもういません。」という意見があった。

<考察>

・祖父母の代は、川で遊ぶことを禁止されていなかったの、様々な魚類を見ているのではないかと考えられる。

・大型ほ乳類（タヌキ、クマ、カモシカ、サル、ウサギ、イノシシ、イタチ、キツネ など）を見た割合が高いことから、今より生き物が棲みやすい自然が多かった可能性がある。そして、山や川で遊ぶことも多かったと考えられる。

2-2 地域の生き物（主に、昆虫・魚）調査と飼育活動

地域の宝探しとして、まず、生き物に関する学習を行った。その中でも、地元で昔から愛されてきた地元の山：浄法寺山の麓の虫（チョウや甲虫 図2）調べ、地区に広がる田畑の用水路の生き物（ホタル）、学校のすぐ南を流れる大河：九頭竜川の魚を扱うことにした。魚に関しては、既にかいたが九頭龍中流域は、サクラマスやアラレガコ、アユなどが有名で、昔から食されてきたなど生活と関連した生き物が多いので、その生き物を中心に学習した。



図2 昆虫採集

また、調査や学習した生き物をできる限り身近で見ることができるよう、学校で飼育して観察するなどの取り組みも行った（次頁：図3）。



図3 左からアラレガコ、ヤマメ、ホタル、カブトムシの幼虫の飼育

### 2-3 河川の水環境を調べる活動

生き物が生息する川の水と家庭からの排水について考えさせるために、9月下旬に、社会科の見学と理科の生き物学習を兼ねて、五領川公共下水道組合の浄化センターへ見学に行った。その中で、下水処理のしくみ（微生物の観察）や水質検査実験（図4）、下水処理場見学などを行った。その結果、下水処理すると水がきれいになることや、飲み残しなど生活排水を流すことが、水を簡単に汚してしまうことなどがよくわかったようである。



図4 水質検査の様子

他にも、地区内の河川の「水生昆虫調べ」や「パックテストによる水質検査」、「水中の細菌調べ」などを行ったが、紙面の関係で割愛する。

### 2-4 九頭竜川の恵みを体験する活動

実施時期は、令和元年10月である。葉っぱ寿司に必要なサクラマスやアブラギリの葉については、自分たちで取ったり、永平寺町の農林課の協力を得たりして手に入る事となった。サクラマスは、サクラマスレストレーションの活動の成果も有り、近年、九頭竜川で増やす活動が続けられ九頭竜川でもよく釣れるようになっているが、今回は養殖のものを使わせていただいた。また、アブラギリの葉であるが、自宅に木を植えている人も多く、いろいろなところで取ることは可能である。さらに、葉っぱ寿司の作り方の指導者として、地元には、葉っぱ寿司等も含め地元野菜を使った調理をしている団体（若鮎会）があるのでお願いをした。

公民館でアブラギリの葉を水洗いし布巾で水分を取り乾かした。大まかな流れは、①炊いたご飯に寿司酢を混ぜる、②寿司飯を食べやすいサイズに丸める、③酢飯に酢に漬けたマスやショウガをのせる、④アブラギリの葉に包む、⑤木杵につけておもりで押す、である。家庭で作ったことがある児童もいると思われるが、みんな、興味津々で、若鮎会の指導を受けながら楽しんでつくっていた（次頁：図5）。そして、数時間重石で押した後、みんなに分けて家に持って帰って家族で食べ、そのおいしさを体験した。自分たちでつくったという思いもあり喜んで持って帰った。



<図5 マスの寿司づくり>

### 2-5 生き物を増やす取り組みを学ぶ活動

九頭竜川でサクラマスの保護活動を行っているサクラマスレストレーションの代表の方をお願いして、毎年、年末に発眼卵(図6)をいただいております。それがふ化し大きくなっていく過程を、児童の当番制で水温記録をしたり、観察記録を残す、エサやりをしたりするなどの活動をして大切に育てた。最終的には、4月に九頭竜川に放流し、また、九頭竜川に元気に戻ってくることをみんなで願う。他にも、九頭竜川中部漁協のアユやサクラマスの中間育成施設を見学に行き説明などを受けたり、アユの威縄漁見学、アユの人工授精と孵化の取り組み体験などを行った。



図6 ヤマメの発眼卵

### 3 まとめ

本年度取り組んできたことは、11月15日の地域学習(総合学習)の発表会である「ふれあい集会」にて発表を行った。保護者や地域の関係者(指導者、ボランティアなど)に参加していただき、これまで取り組んできたことを子どもたちなりに整理し、まとめ、プレゼンや劇等に行ったり、クイズを取り入れたり工夫して、発表者も参加者もみんなで楽しむ発表にできた。

### 謝辞

この取り組みを進めるにあたって、公益財団法人中谷医工計測技術振興財団の助成をいただきました。ここに謹んでお礼を申し上げます。

### 参考図書

- ・ポケット図鑑日本の淡水魚(文一総合出版)
- ・ポケット図鑑日本の昆虫1400①(文一総合出版) ほか

以上